



鶴の便り 鶴の便り

夕鶴の里資料館報
平成26年4月20日
第40号
発行 夕鶴の里
Tel 47-5800

平成二十六年 主な事業日程

平成二十六年年度の主な事業・
関連事業。

- ◇武田正先生を偲ぶ会
五月十日(土)
午後一時三十分
夕鶴の里語り部ホール
- ◇第十五回「語り部養成講座」
六月～七月 毎週土曜日
- ◎閉講式・公開講座
七月二十六日(土)
- ◇第十二回
民話の「語り駆伝」
七月六日(日)
夕鶴の里語り部ホール
- ◇紙芝居でつづる
「ふるさとのお昔」事業
九月六日(土)・十月十八日
(土)・十一月九日(日)
- ◇第十五回夕鶴の里
「民話まつり」
十月五日(日)
夕鶴の里語り部ホール
- ◇第十六回「子どもまつり」
十月十二日(日)
夕鶴の里語り部ホール
- ◇昔のあそび体験
五月・七月・九月・十一月・一月
- ◇出前養成講座
(漆山小学校・中川小学校)
十一月～一月 三回講座
- ◇第五回
「おきたま語りフェスティバル」
六月二十二日(日)
午後一時三十分
白鷹町文化交流センターあゆーむ
- ◇「あゝ野麦峠」上映会
九月十三日(土)・十四(日)
蔵楽

語り部養成講座受講生募集

- ◆日時 6月7日(土)午後1時30分～開講式
6月～7月の毎週土曜日 午後1時30分～3時(全8回)
- ◆場所 夕鶴の里
- ◆対象 民話・語りに興味のある初心者の方
- ◆内容 こどもの部とおとなの部に分かれて民話を語る練習をします。7月26日(土)の閉講式に公開講座として夕鶴の里の舞台上で語ります。
- ◆参加料 無料 ◆締め切り 5月27日(火)
- ◆申込・問合せ 夕鶴の里 47-5800



二十六年
職員
よろしくおねがいます。

- 館長 ◎高橋大吉
- 職員
- ・佐藤優子
- ・山口華織
- ・佐藤久美子
- ・渋谷美沙
- 職員も作業衣を来てお客様をお迎えします。皆様、ござつとごえ。

～お知らせ～

縁結び
青芋のフレット販売中



青芋は丈夫な糸なので縁が切れません。

夕鶴の里昔のあそび

●もちもち和菓子を作ろう●

- ☆日時 5月24日(土)
- ☆時間 午前10時より
- ☆参加料 1人200円

ありがとうございました

小関トミ子さんが3月末をもって、民話会ゆうづるを退会されました。小関さん、長い間、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづるの

「金田祐一さん」

をご紹介します。

Q、民話会ゆうづるの会員になったのはいつごろですか？また、そのきっかけはなんですか？

A、金田

平成十五年国民文化祭の語りフェスティバルの年に語り部養成講座を受講して珍蔵寺会場で受講生の語りとして出演させていただき翌年の十六年に現會長の多勢久美子さんより入会のお誘いが有り入会して十年になります。

Q、語り部になられてよかったですはなんですか？

A、金田

数多くの色々な方々との交流ができたことが良かったです。特に養成講座で小学生の子供達と知り合えたことで挨拶を交わすことができ大変良かったとおもいます。

Q、語り部として一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、金田

観光で来られたお客様とか、修学旅行や課外学習などで訪れた小学生から、お手紙やハガキ来しかったとお便りをいただいた時です。

漆山地区 地名伝説集

〈羽付むらの由来〉

むかーし、むかし、大昔の事だぞ。

春になったげんど寒めーえ日が何日も、何日も続いていた年の事だったぞ。

村の人々は「困ったなえー、そろそろ種まきすんなねげんど寒くて困ったもんだなえー、そろそろ種蒔きすんなねげんど寒くて、寒くて困ったもんだなえー」と話しながら、山の方眺めったけど。そしたら、大空から黒いのと、真っ白にのと、二つの鷹が飛び降りて来たんだけど。そして、そのうちの黒い鷹は、池黒のお羽黒山の頂上の木さとまり、真っ白い鷹は稲荷山の松の木の梢さとまったけど。そして二日たっても、三日たっても鷹はどごさも飛んでいかねで、巣造りしたけど。

村の人が山の鷹見るたんびに、その鷹の真っ白いごど、お月様の光のようなもんだから、みな、「これはただの鷹ではねえな、神様の御使いが飛んできたんだべー」といつて稲荷山の鷹を拜んでいたんだけど。

そして、この鷹飛んできてからは、毎日暖かい日がつづいて、種蒔きもされるようになったんだけど。

種蒔きも終わったある朝、村の人達が起きてみると、この鷹は、松の木の枝さ、一つの真っ白い羽を残して、天に昇って行ってしまっ

ただだ。

その羽の白いごど、お月様のようだったもんだから、村の人は「羽月村」と言うようになったんだけど。

しかしその後むらの長老の人が、「お月様の字を使ったら恐れ多いことだ。」ということ、羽が付いた村ということにして、「羽付むら」ということにしたんだぞ。

とーびんと

※寛保元年（一七四一）に書かれた稲荷大明神元由の古文書が羽付に現存しており、その中に稲荷神社の由来とともに、白い鷹の羽にもとづく、羽付の地名の由来が書かれている。

地名伝説担当編集

おりはたの里づくり

推進会議



「金田祐一さん」

